

# 「参加すごろく」と「処方箋」で高齢者の地域活動参加促進を支援

— 「高齢者の地域活動参加のためのまちづくりの手引き」公開に向けて —

(問合わせ)

住宅・都市研究グループ  
主任研究員 石井 儀光

Tel 029-864-6696

E-mail [ishii@kenken.go.jp](mailto:ishii@kenken.go.jp)

# 「高齢者の地域活動参加のためのまちづくりの手引き」

- 「健康長寿社会に対応したまちづくりの計画・運営手法に関する研究」(H26-27年度)の成果のひとつ

## 背景

- 急速な高齢化、社会保障費の増加
- 介護予防の観点から、高齢者の閉じこもりや社会的孤立を防止するため、高齢者の外出を促進し、地域活動等への社会参画を促すことが求められている。
- 人口減少・景気減速等による財政状況の悪化によって従来の水準で公共サービスを提供することが難しくなり、地域で長い時間を過ごす高齢者を主体とする地域の共助でその一部を担うことが期待されている。

## 目的

- 地域活動の担い手となる高齢者の地域活動への参加を促進・定着する



「手引き」概要版のイメージ

# 「高齢者の地域活動参加のためのまちづくりの手引き」

- H26年度に公開した「**高齢者が生き生きと暮らせるまちづくりの手引き**」では、高齢者の「居場所」づくりを中心に、高齢者のための地域活動の始め方や、長く活動を継続するための工夫など、活動のマネジメント手法を中心にとりまとめた。



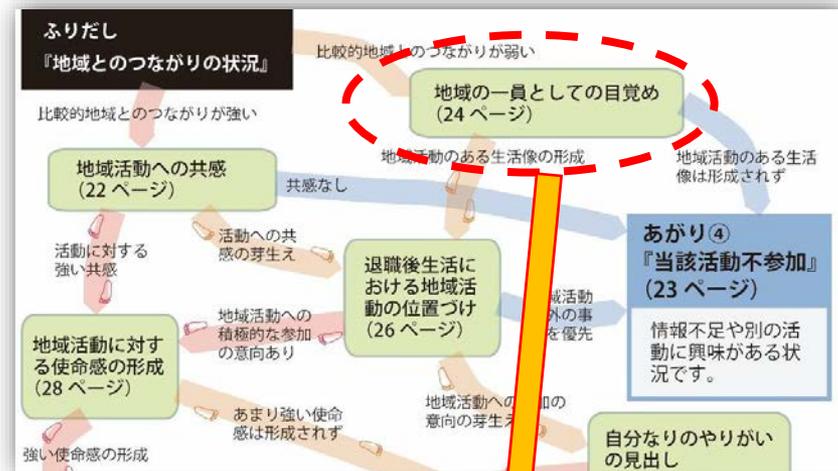
- 今回公表予定の「**高齢者の地域活動参加のためのまちづくりの手引き**」は、地域活動に参加したくてもきっかけがなかったり、どこでどのような取り組みに参加すればよいか分からない高齢者が、地域活動に参加しやすくなるように、地域活動団体が行っている取り組みの工夫を紹介する。
- 高齢者が地域活動への参加に至るまでの経緯や、活動の参加・継続を判断する上で重要な分岐点となった場面を「**参加すごろく**」で表現し、場面毎の地域活動団体の参加促進の工夫を「**処方せん**」としてまとめた。



過年度に公表した、居場所づくりに関する手引き  
活動のマネジメント手法が中心

# 地域活動<参加すごろく>と<処方せん>

- ふりだしを「地域とのつながりの状況」として、地域とのつながりが強いか弱いかなという状況の違いによって、「場面」が分岐していく。
- 例えば、地域とのつながりが弱い場合、「地域の一員としての目覚め」という場面があり、そこでの地域活動団体の取り組みの工夫を<処方せん>として紹介している。



<参加すごろく> 抜粋

- <処方せん>では、地域活動団体やそのリーダーが行っている、参加促進のための働きかけの例や、行政などの地域活動団体を支援する組織による働きかけの例を紹介

<処方せんB> 地域の一員としての目覚め

## 『新たな参加者に地域活動のある生活像をもってもらうには?』

○現在の地域とのつながりが比較的弱い人は、生活の中で地域活動に参加する暮らし方があることへの気づきが、地域活動との関わりの最初のステップとなります。

地域活動参加に至る<要因>	<働きかけ例>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習等での意識づけ</li> <li>・地域活動との関わりの気付き</li> <li>・退職後生活への不安</li> <li>・家にこもっていても仕方ないという思い</li> <li>・既存の地域活動の印象</li> </ul>	<p>リーダーにできること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのつながりがあまりなかった人との積極的なコミュニケーション</li> <li>・掲示や広告を活用したメンバー募集</li> <li>・活動の達成感や成果を伝える PR</li> </ul> <p>団体支援者にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が集まる場での地域活動への参加の良さの PR</li> <li>・活動に参加することで行政サービス等が受けやすくなる取組みの実施</li> </ul>

地区の広報などを活用しての団体の活動内容の紹介

<処方せん>の例

# <参加すごろく>と<つぶやき>

- <参加すごろく>の「あがり」は、活動への習慣的な参加や、イベント時だけの限定的な参加といった参加状況に加え、体力面で活動を止めざるを得なくなった場合の「卒業」なども記載している。



## <参加すごろく>の「あがり」

- 地域活動団体のメンバーが、参加を働きかけていきたいときに、その人がどの「場面」に相当するかが明確にわからない場合には、高齢者の<つぶやき>を参考に、<処方せん>を探すことも可能。

「既に他の地域活動にも参加していますが、地域活動との関わりはまだありません」  
「定年退職を迎える前から、頻繁に町内会や地域行事に参加してきましたが、地域活動への関心はそれほどありませんでした」

➡22 ページへ  
<処方せん>のページを表示

「現役時代、地域活動は妻に任せきりでした」  
「退職を機に、娘が住む町に引っ越してきました」

➡24 ページへ

## <つぶやき>の例

# <参加すごろく>作成のためのライフヒストリー調査

- ライフヒストリー(個人インタビュー)調査では、各調査対象団体から5~7名推薦いただき、調査対象者を指名し、原則一名ずつ個人インタビュー形式で団体に参加した経緯や苦労等について把握した。

## 個人インタビュー調査の内容

### 【活動に関連する事項】

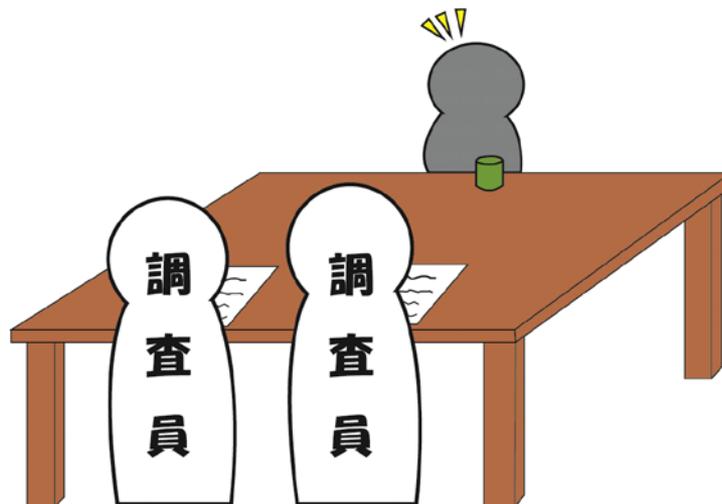
- ・活動に参加した経緯、きっかけ、苦労
- ・団体内での役割
- ・活動における苦労
- ・地域とのかかわり方の変化
- ・自身にとっての活動の意味

### 【合わせて伺った事項】

- ・住宅の所有形態
- ・現在の職業
- ・健康状態
- ・出生から現在に至るまでの歴史
- ・家族、親類の状況
- ・居住地区との関わり、自宅外の居場所

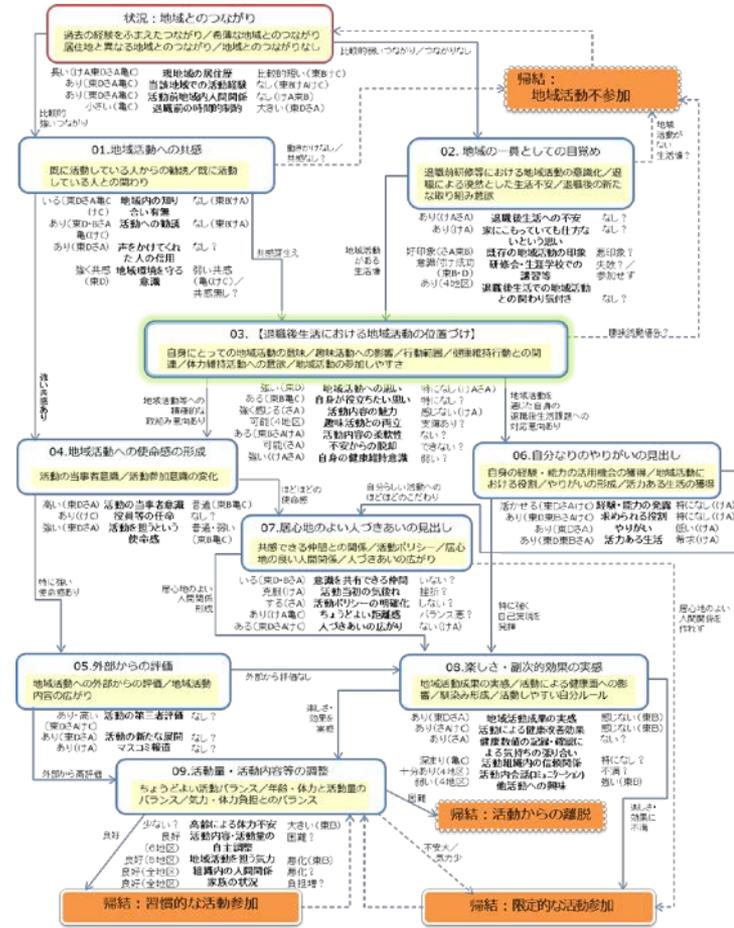
(インタビューの時間は人当たり20~50分程度)

☆個人インタビュー調査のイメージ



# 質的分析法による地域活動への参加プロセス解明

- ライフヒストリー調査は、質的データ分析法(GTA)を用いて分析
- GTAは、1960年代に提唱された質的研究法の一つ
- データに立脚した分析から理論の生成を可能にする方法論として考案
- 看護、保健、ソーシャルワークなどのヒューマンサービス領域で広く実践されるようになった
- 質的研究で不透明、恣意的になりがちな分析プロセスを明確にできることから、GTAを採用



分析結果(カテゴリー関連図)

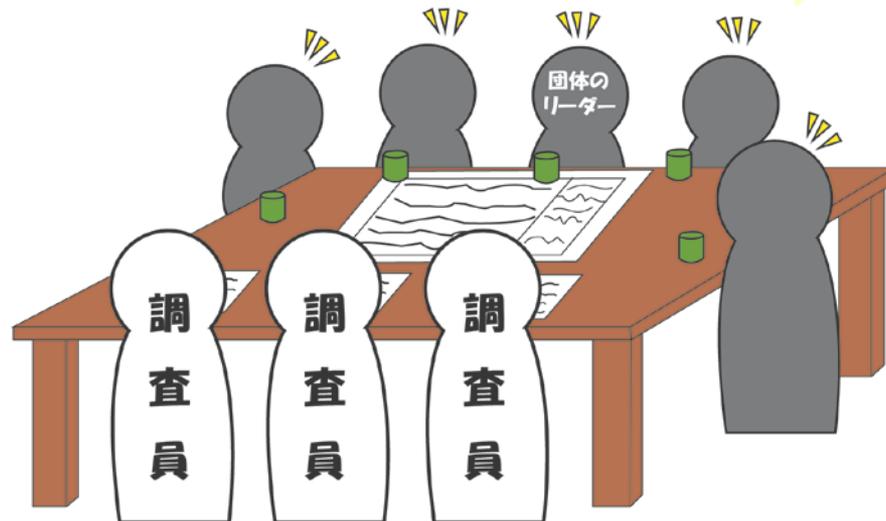
# < 処方せん > 作成のためのグループインタビュー調査

- グループインタビュー調査では、団体のリーダーを含む現在の活動を良く把握している複数人が一堂に会し、団体で、高齢者の参加を促す工夫点や高齢者に与える影響、地域に与える影響等について伺った。

## 団体へのインタビュー内容

- ・ 活動の経緯と今後の展望、団体構成、活動内容
  - ・ 高齢者の参加を促す工夫点
  - ・ 活動における苦勞
  - ・ 概ねの活動予算
  - ・ 行政・他団体との連携、支援
  - ・ 高齢者に与える影響、地域に与える影響 等
- (インタビューの時間は各団体 60~90 分程度)

グループインタビュー調査のイメージ



# 参考:「手引き」の構成

## 第1章 高齢者が支える地域社会

- 高齢者が支える地域社会とは
- 高齢者による地域活動の現状と効果
- 高齢者の地域活動の参加促進にむけて

## 第2章 高齢者の地域活動参加促進手法

- <参加すごろく>から<処方せん>を探す
- <つぶやき>から<処方せん>を探す
- 地域活動参加の<処方せん>

## 参考資料

- 調査対象団体の活動の概要  
etc.

# 手引きの公表に向けて

---

「高齢者の地域活動参加のためのまちづくりの手引き」  
ー <参加すごろく>と<処方せん>ガイドー

は「建築研究資料」として、本年12月末の公表に向けて  
準備中（公表時はプレスリリースを行う）

公表後は、以下の「建築研究資料」ダウンロードページ  
からダウンロード可能。また、希望する自治体・活動団  
体等には冊子版を配付予定。

<http://www.kenken.go.jp/japanese/contents/publications/data.html>

お問い合わせ先

- 住宅・都市研究グループ 主任研究員 石井儀光  
029-864-6696 / ishii@kenken.go.jp